

監修：矢萩大輔 (有)人事・労務 代表取締役
 無料農業支援ポータルサイト
 「われらまちの農縁団」
<http://social-jinji-roumu.com/farming/>

今回の執筆者 **矢尾板 初美**



(有)人事・労務パートナー行政書士 / 903シティファーム推進協議会委員長。明治学院大学国際学部卒業後、総合物流会社を経て行政書士として独立。法人設立や事務局サポートなどコミュニティ創りを支援している。2020年より東京浅草でコミュニティカフェをスタートさせた。

CSR [企業の社会的責任] を 農業経営の指標に

今回のキヤスト 社長 藤田 匠、社員 西園寺 千代

アルパカファームに、IT関連企業から農業体験の依頼が舞い込んできた。その目的を聞いてみると……。

藤田 千代ちゃん、今度都内の企業で働く人たちが、8名くらい畑を手伝いに来ていって連絡があったんだけど、再来週の週末って受け入れられる？

千代 大丈夫です。ただ出荷が多い週なので、農業体験としてしっかり対応できるかは微妙ですね。

藤田 了解。みなさん某大手通信企業に勤めてて、これから副業を解禁する流れになってるんだけど、その第一弾として農業からOKにしようと思ってるらしいんだよ。なかなか面白い発想だね。千代 へー、たしかに面白いですね。通信系の企業だったら、アグ

リテックの分野だったり、環境の分野だったり、農業と親和性ありそうですね。

藤田 そういう意味も込めて、社員が現場に出て経験を会社にフィードバックしつつ、農家をアシストする副業としても成立することを目指しているんだって。オンラインでの環境教育の分野でも農家と連携したいって言ってたな。

千代 なるほど、全部つながっているんですね。

藤田 あちらにとっても、うちにとっても、CSR活動の一環だね。でも、知識と経験が体験の域を越えないと副業にはならないし、む

農業こそ、CSRの船頭役だ！

取引にも影響する CSR対応

今年に入り、CSR (Corporate Social Responsibility : 企業の社会的責任) について、ご相談をお受けする機会が増えました。たとえばこんな問い合わせ——取引先から突如送られてきた「CSRアンケート」へ回答したら、「2年後ま

しろうちも手間がかかるからお金もらって受け入れないと割に合わないから、その辺りは難しいところだね。みなさんはITのリテラシーも高いから、はじめのうちにはプロボノでECサイトを構築してもらったり、農作業以外の部分で力を借りつつ、うちで農作業データを取ってもらって、お互い補完し合う感じになるかな。

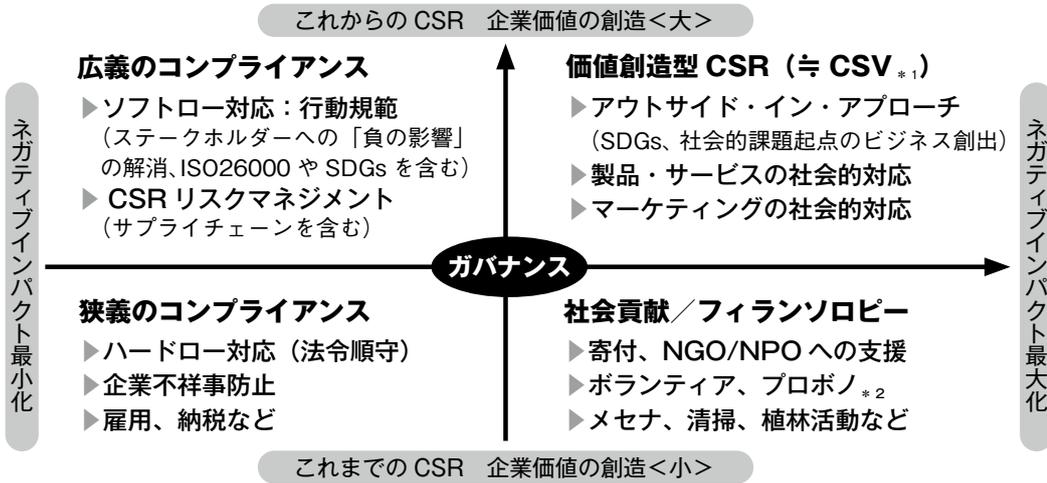
千代 それはすごく助かりますね。でもなんでわざわざうちに連絡をくれたんでしょうか？

藤田 都内から近くて、有機農法や自然栽培に取り組んでいる農業法人を探して、環境教育と地域との共存が決め手だったって言うんだよ。

で改善が見られなければ、取引の継続はない」と言われてしまった。一体どうすればよいのか？

小さな企業の多くは、法令遵守はもちろん、社員や取引先・関係先との良好な関係を保つための方策を、具体的には示していないのが現状です。明文化して公にはしていない。これまで常識の範囲内でやってきて問題も起きなかった

■CSRのこれまでとこれから



縦軸＝創造性の有無、横軸＝行動の前提がネガティブな影響を社会にもたらさない取り組みかポジティブな影響を社会へ与えるか。上半分＝企業統治のあり方が創造性へと向かう未来から求められる企業統治のあり方、下半分＝現在のCSRの取り組みのあり方。左半分＝企業・社会のリスクを低減するあり方、右半分＝企業の評判を高めるあり方。企業の持続的な成長の違いは、この4象限から生じている。

* 1：Creating Shared Value（共通価値の創造）の略

* 2：社会的・公共的な目的のために職業上のスキルや専門知識を活かして取り組むボランティア活動

CSRの10分野チェック——自社のあり方を明文化しよう

- ①法令の遵守：①法令遵守意識の徹底、②業界慣行・商慣習等の検証
- ②人権の尊重：①人権への配慮と人権侵害の排除
- ③環境への対応：①省エネ・地球温暖化対策の実施、②環境汚染の防止、③自然環境・生物多様性への配慮
- ④従業員の就業環境整備：①職場環境改善への取り組み、②従業員等のモチベーション向上
- ⑤顧客・消費者からの信頼獲得：①安全性の最優先、②正確な情報提供、③顧客情報の適正管理
- ⑥取引先との相互発展：①取引基準の確立、②取引先情報の適正管理
- ⑦地域との共存：①地域の課題解決への貢献、②地域の文化等への理解
- ⑧出資者・資金提供者の理解と支持：①財務・税務会計の正確性、②企業統治（コーポレートガバナンス）の徹底
- ⑨政治・行政との健全な関係：①公務員との透明性の高い関係、②政治家との透明性の高い関係
- ⑩反社会的勢力への対処



分野ごとに「経営者の姿勢」「管理面の対応」「実施状況」の現状を確認
→自社のあり方を描く

参考：東京商工会議所「企業行動規範対応チェックシート」<https://www.tokyo-cci.or.jp/sansei/checkhonbun.pdf>

動きが取れなくなってしまう。単なるトレンドとして迎合するのではなく、自社に合った適切な目標を選んで取り組み、社会と自社を持続可能性のために、主体的にCSRを実践することです。

企業理念やノウハウ、社会的信用、ネットワークといった、無形資源をも評価し活用することが必要であり、自社の「らしさ」を活かすこと、つまりパーパス（存在意義）が重要です。

決まったやり方がないからこそ、自社が社会に提供している「本質的価値」とは何か、自分たちが届けたいものは何かを問い直すことが必要なのです。

上表で紹介したチェック項目のなかでは、環境への対応（自然環境・生物多様性への配慮）や、地域との共存に頭を抱える一般企業が多く見られます。そんななかで農業は、こうした分野でこそ強みを発揮する可能性を持っているのではないのでしょうか。

経済的資本のみならず人的関係資本、社会関係資本、自然関係資本とそれぞれの資本の創造へ。時代の流れを好機と捉え、さらなる社会的価値を生み出す企業へ、ともに段階を上げていきましょう。

のに、いきなりCSRを突きつけられて戸惑っているのではないのでしょうか。

農業分野でも、たとえばGAP認定を取引条件にするなど、環境や安全性への対応も迫られてきて

います。まずは、自社のあり方を振り返り、企業の行動規範を明文化し、社員への浸透を図らなければなりません。CSRについては、否応なしに具体的な対応が求められていくのです。

自社らしさを活かしながら社会的価値の創造へ

CSRの実践に決まった型はありません。CSRを過度に意識すると、内容の壮大さに困惑し、身